

# マイトーク MY TALK

## 第3号

発行：中央大学放送研究会OB会（会長／水上 虎馬雄）

住所：〒192-03 東京都八王子市東中野742-1 中央大学放送研究会気付

発行日：平成9年12月20日



## 心の拠り所がOB会の神髄

晩秋の落ち葉が舞う11月18日、JR神田駅に近い東西社に桃川龍一さん（2期）をお訪ねし、学生時代から経営者としての今日までをお伺いしました。



青春時代を語る桃川さん

### ◆中大は地方出身者の集積地

私は昭和二十五年の入学ですから、まだ戦争の傷痕が随所に見られた頃です。故郷の新潟県柏崎から夜行列車で上京したのですが、田舎では大学の情報といっても蛭雪時代ぐらいで、中央大学がどこにあるのかも分かりませんでした。東京から疎開していた高校の先輩が、たまたま神田に戻って中大に行っていたので、ともかく学校の所在を聞くと、「御茶ノ水の駅を出ると白い校章の学帽をかぶった学生が沢山いるから、それに付いて行けば中央だよ。金色

の奴が付いて行くと明治と日大だからね」と教えられ、どうやら中大に辿り着きましたが呑気なものしたね。

当時の中大は、私のような地方出身者がやたら多く、おまけに貧乏人ぞろいでした。大学の受験項を見ると、中大は私学の中で学費が一番安く、の無い連中が全国からみんな集まってくるみたいでしたよ。私の友達も地方から出てきた者が多く、一休みなど北海道の友達の家を転々とすれば一ヶ月らしいの貧乏旅行はできたものです。

### ◆レッドページ下の演劇研究会

ろくに食べ物もなく貧乏学生であっても、クラブ活動はかなり盛んでしたね。大学図書館の地下に1モニカ教室と呼ばれたベニヤ仕切りの会室が並んでいて、文連所属のクラブが集まっていました。は、高校時代に水泳と演劇をやっていたので、どちらかを続けようと思って、阿佐ヶ谷の大学プール行ったり演劇研究会の会室を覗いたりしましたが結局は劇研に入会することにしました。

当時は新劇ブームで、俳優座や文学座に憧れる者が多く、劇研もかなりの大所帯で文連の中心勢になっていました。その翌月の五月に大学の新入歓迎会が催され、入会したばかりの私までが駆りされて舞台作りや演技に取り組みましたが、夜遅までラーメンをすすりながら講堂で稽古していると、これこそが大学生活の面白さなのだという実感が湧いたのですよ。

ところが、それからしばらくしてGHQによるレッドページが実施されたのです。共産思想の弾圧は政治家や思想家ばかりでなく先生や学生にも及び

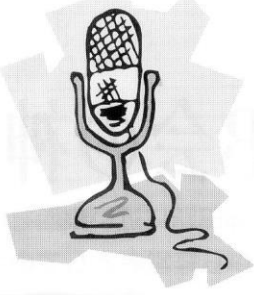
した。大学の演劇部は思想的に学生運動の温床になるとされ、劇研でもチェーホフなどの作品は上演禁止になってしまったのです。誰もたいしたイデオロギーなんか持っていないのに、なんともひどい時代だったんですね。

### ◆偶然だった放研との出会い

そんなことから劇研にも嫌気がさしていた大学二年の夏頃でしたが、中庭で偶然に近藤くんに出会ったんです。彼は、私と一緒に劇研に入って、私はライター志望だったんですが、彼は演出をやっていた。新人歓迎コンパで焼酎を二気飲みをさせられ、二人してぶっ倒れたものです。その後、彼は演出のことで先輩と意見が合わず、一年の終わり頃に退会して疎遠になっていたのですが、しばらくぶりにバツタリ出くわしたわけです。

彼の言うには、放送研究会を作ったんだが演劇をやる人間がいない、「どうだ劇研を辞めてこっちにこないか」との誘いです。劇研もゴタゴタしていたし「いいよ」と返事すると、「放研は女性が少ないから、ついでに女の子を二、三人引っ張ってきてくれよ」と言うんですね。それで劇研の女優を二人ばかり今で言う引き抜きをして一緒に放研に移り、なんとか劇団の組織が整って活動を始めたわけです。

こんなようにして昭和二十七年にスタート



材に不自由はしていましたが、兄貴のような水上さんや植松さんの親身のお世話をいただき、放送という夢に全員が力を結集していた時代でした。

### ◆記念すべき第一回イベントの取組

ちょうどその年、大学放送連盟で第一回放送劇コンクールが開催され、我々も参加することになりました。もう内容はよく憶えています。私も乞食の役で出演し、みんな近藤くんの家に泊り込みだりして作り上げました。なんとその作品が見事に佳作に選ばれ、ラジオ東京（現TBS）でオンエアされたんです。

コンクールは録音テープで参加したのですが、どういうわけか、ラジオ東京はスタジオからの生放送でした。当時、有楽町に在った毎日新聞社内のスタジオに全員が集まって、必死の思いでドラマを電波に乗せるという初体験をしましたが、今でもあの緊張感は忘れませんね。

私が卒業した昭和二十九年は、不景気で大変な就職難でした。それでも、同期からは近藤くん、坂くん、藤本くんなど数人がアナウンサーとして巣立つて行きましたよ。東京を離れてローカル局に行く人はかなり悩んでいたようですが、それでもアナウンサーになるんだという意欲が強かったですね。

### ◆卒業と同時に広告代理店の経営

仲間たちは放送関係に進んでいきましたが、私は親父が経営する小さな広告会社を手伝わなくてはなりません。主に交通広告と屋外看板を扱うのですが、当時は広告代理店なんて世間で認められて

よりは「おーい看板屋」って呼ばれるんですね。しかに見板屋には違いないけれど、私も同業の連中も、みんな嫌がっていました。とうとう、つながりである「東京看板協同組合」という名で「東京広告美術協同組合」に変更しました。今こそ広告代理店は華やかな業種ですが、それは単なる中間搾取業としか考えられていなかったですね。

そんな時代でしたから、看板のデザイン料などは考えられもしなかったんです。クライアントは「費と手間賃と媒体料を払えば、デザイナーなどおだったのです。当時は商業デザイナーも少なく、とんどが画家の転身者でしたが、それでもデザを頼めば金がかかります。私は、客になんとかイン料を認めてもらおうと、あるときは喧嘩腰に涉りました。デザイナーは広告代理店の儲けで、くデザイナーへの報酬なのだと言いつつ、こちらが勝手にデザイナーを使ったんだ」となかなか納得してくれませんでしたよ。今ではデザイナー、華やかな職業ですが、この慣習を作ったのは私だと胸を張ることができません。

### ◆Opaは心の安らぎの場

そんなわけで、初期の広告業界でさんざんに、ずいぶん苦勞もしました。同期の連中とも、いつい音信が途絶えてしまうこともあったのでそんな時、ふらりと駿河台の会室に寄って現役を見るとき、なんだかホッとしたものですね。その室も八王子に移転してしまい、遠い存在になりました。わたが……。

も所属してはいますが、名誉会長「そごう」の水島さんは、銀座あたりに会員が誰でもひよつと立ち寄れる倶楽部専用の場所を持つのが夢だそうです。放研OB会がそんなわけにはいかないけれど、ホッとして心の安らぐ場を作るための工夫はあるはずですよ。先日のOB会ゴルフコンペは、二十人もの参加があり盛会でした。それに、最近では各同期会も活発のようですね。意識が高まっていると思います。OB会の役目の一つは、みんなが参加できる機会をいかに作り上げるかということでしょう。三年に一度の総会、五年ごとの周年に加えて、ゴルフでも、飲み会でも、そこに参加すれば老いも若きもホッと存在がOB会なのではないでしょうか。

(インタビュー 金野)

### メモランダム

卒業以来、四十余年にわたり経営者として広告業界を体験されてきた桃川さんは、一言一句に俊敏な時代の読みが伺えます。

「中大は昔から弁護士イメージだけれど、もっと大物財界人が出てほしい。南甲倶楽部も暇な年寄りばかりの老人クラブではね」と世代交代に期待。

「同期も大事だけれど、OB会はタテのつながりが必要。幹事は大変だろうけれど、集いの機会を作るのがOB会の役目だよ」と会の運営に示唆。

すっかり健康も回復され、懐かしいエピソードになるとウォーホッホとお笑いになる姿は、桃太郎侍の健在ぶりが拝察されました。

## 追悼

### 中田光洲先生

中央大学放送研究会の第二代会長として十年余にわたりお世話になり、ご引退後も周年事業には必ずお元気な姿を見せておられた中田光洲先生が、先日ご逝去なさいました。

OB会一同、謹んで哀悼の意を表するとともに、人間愛にあふれ、後進の指導に熱心であられた先生のご冥福を心よりお祈り申し上げる次第です。

御長女の高木洲美子様よりお葉書を戴いておりますので、ここにご紹介させて頂きます。

拝啓 初冬の匂いがする季節、皆様如何お過ごしでしょうか。去る十一月四日、父中田光洲が肺炎にて九十五歳で逝去いたしました。生前、皆様からひとかたならぬ交誼を頂き、楽しく



第1回OB総会でご挨拶なされる故中田先生

も満ち足りた人生であったと思います。父は、

戦前の予科時代から昭和四十三年迄、四十年間中央大学に奉職して、こよなく大学を愛し、そこでの絆を大切にしていました。また、故郷富山を懐かしみ、その土地につながる方々とのご交際を楽しみにもしておりました。大学を退いた父は趣味の世界に遊び、漂々と散策を重ね、晩酌を欠かさず煙草を手離さず、そして元はプロの歌手であった自慢の喉のままに高唱するなど、気儘で自由な余生でした。先年、母が亡くなるまで何不足ない老境でしたが、つい一年前足腰が不自由のまま入院を余儀なくされ、それでも穏やかな日々を送って枯れるがごとく亡くなりました。葬儀は本人の固い意志を尊重し、極めてわずかの近親だけでとどこおりなく済ませました。生前皆様から頂戴したご厚意に御礼申し上げます。長い間ありがとうございました。

敬具

#### 水上会長談

「中田先生は、中大卒業後四十年以上にわたる大学に勤務され、放研でも第二代会長として長い間お世話になりました。大変に明るい性格で、周囲を笑わすことが得意でした。また、レコードに吹き込まれたほどに歌がうまく、とりわけ、ご出身地の富山県の民謡「越中おはら節」が絶品でした。二年前の第一回OB総会で、ご高齢ながらお元気で祝辞を述べられた姿が目につかびます」



# AGILITY

OBアクティビティ

## 晩秋の空にナイスショット

茨城県 17期 北島宏幸

前日の雨もやみ晴れ間がのぞいた十一月十六日、東筑波カントリークラブに水上会長をはじめ総勢二十名が集まりOB会親睦ゴルフコンペが開かれました。これまでも数期の有志が誘い合ってプレイすることはありましたが、今回、期の幅を広げて呼びかけたところ、あつという間に五組がまとまってしまったのです。

参加者のハンデも決めようがなく、ダブルペリア方式による十八ホールストロークプレーを基本にして、詳細ルールは各組内の合意で決定するという典型的な親睦コンペ。定刻の九時四十分、水上会長の華麗な始球ショットに、ボールは見事フェアウェイ真ん中に着地して一同拍手。いよいよ和気あいあいのプレイがスタートしました。



始球式で慎重にアドレスする水上会長

飛びの良いのは腕のせい、左右の曲がりにはクラブのせい、チョロやダフリは眼鏡のせい、反省よりは言い訳が先立つのがゴルファー魂。それでも日頃のストレッチをすっかり汗に流し、午後三時頃までに和やかにホールアウトしました。

クラブハウスで行われた表彰式では、川口くんの司会でNETによる順位(別表参照)が発表され、参加者各自の持ち込みによるバラエティに富んだ賞品が授与されました。

優勝は予想どおりホームコースの吉田くん、グロス80はお見事。続いて最高齢の水上会長が準優勝、これまたグロス94の好成績に全員喝采。当日の紅一点、堤さんは上品にブービー賞、若尾さん寄贈の洗剤一年分の目録が手渡されると拍手と笑いで盛り上がり、次の機会を約束して暗くなった筑波路を後にしました。

今回の親睦ゴルフは、OB会の正式行事としてコンペが成立するかどうかのテストケースでした。そのため、有志の連絡網だけで参加を募ったこともあり、連絡が行き届かなかった点はご了承ください。

NET順位(敬称略)

- ① 吉田 填一郎(17期)
- ② 水上 虎馬雄(会長)
- ③ 堀井 栄一(17期)
- ④ 檜崎 宏二(14期)
- ⑤ 坂 政夫(2期)
- ⑥ 武居 克郎(4期)
- ⑦ 桃川 龍一(2期)
- ⑧ 斎藤 剛(15期)
- ⑨ 川口 稔(17期)
- ⑩ 富田 守貞(15期)
- ⑪ 橋詰 弘道(14期)
- ⑫ 若尾 英樹(12期)
- ⑬ 北島 宏幸(17期)
- ⑭ 田中 克巳(24期)
- ⑮ 荒井 藤樹(14期)
- ⑯ 河合 昭次郎(11期)
- ⑰ 熊倉 勝利(8期)
- ⑱ 佐伯 昌孝(15期)
- ⑲ 堤 美沙(15期)
- ⑳ 浅見 一策(14期)



戦い終わって和やかに記念撮影

それにもかかわらず、予定の二十人を超える応募があり、やむを得ずご辞退を戴いた各位に改めてお詫び申し上げます。

このテストにより、OB会コンペが十分可能であることが確認できましたので、幹事会に諮り、正式行事としてスタートできれば幸いです。今回はとりあえず十七期が世話役を務めました。今後は実施要綱を作り、各期の持ち回りで開催する予定ですのでご協力をお願いします。

# 十二期旅行(山口・津和野・萩)

東京都 12期 砂岡茂明

昨年の四国に続いて今年も毛利元就探訪の旅。

十月十日山口宇部空港で落ち合ったのは北上夫妻(札幌)、古田島(新潟)、水上会長、近内、内田、石井、米山夫妻、砂岡、具志(首都圏)、高橋夫妻(名古屋)、鈴木正勝、関(関西)、富岡夫妻(倉敷)、菅根(岩国)、それに現地幹事徳原の十九名。

国宝の五重の塔、雪舟庭と旧跡を訪ねた後、山口放送スタジオで生のニュースショーを見学。同期会初の局見学は、ご夫人方に大好評。その後は、徳山名物の「ふぐ三昧」。徳原夫人のトークショー、井上先輩(四期)の飛び入りで盛り上がった後は、腹



井上進先輩(4期)の演説は“さわやか”で爆笑



津和野の鯉は圧巻

ごなしのカラオケで初日は終了。翌日は、バスで津和野散策後萩へ。昼は、萩の地ビールを賞味。松陰神社、東光寺、武家屋敷と強行軍で宿へ。ゆつくり温泉につかってまた宴会。最終日は、秋吉台、秋芳洞探訪後、小郡で、最後の昼食会でまたまた乾杯。観光2、グルメ3、コミユニケーション5。快晴にも恵まれた二泊三日の楽しい旅行でした。



## セピアのアルバム

### 激論に汗した松原湖合宿

一枚の写真が語りかけるものは、いつまで、新鮮で生々しい息吹を感じさせます。まして、春の一夏の出来事ならば、なおさらに……。

「ちょうど全共闘運動の最中でしたね。みんな徹夜でデイスカッションしたのが、つい昨日のようだな」と当時四年だった十七期の北島さん。

昭和四十三年八月二十六日から三十日まで

長野県松原湖で合宿は、四千八百円と当時として、高額な費用にもかかわらず百人の参加がありました。

「授業は休講、試験は論文提出と大学は殺伐としました。でも、宿で討論する仲間達の目は、みんな明るく輝いていましたよ」

北島さんの目は、セピア色の真が、青春の夏日差しに照る原の思い出としてついています。



# AGILITY

現役アクティビティ

## 【越後湯沢で夏合宿実施】

まだ夏の余韻が残る九月六日から九日にかけて、私たちは新潟県越後湯沢温泉に三泊四日の夏合宿を実施しました。一年生十七名、二年生十一名、三年生八名の総勢三十六名は、新宿駅前から観光バスに乗り込んで一路越後湯沢へ。宿泊はスキー場にほど近い「ホテル・カブ」を、豪華に一軒貸し切りです。

合宿では、白門祭と秋の番組発表会の具体的な方針や体制作りについて、丸一日をかけて話し合いました。白門祭は既に日程が決まっていますが、秋の番組発表会については正式に十一月三十日に行うことになり、プログラムや制作スケジュールの詰めを急ぐことになりました。

もちろん、レクリエーションにも十分に時間をとり、ソフトボール、釣りなどを楽しみながら友情と結束を高めました。

最終日には、四年生が十一名で合宿所を訪れ、生々しい就職体験報告が行われました。今年は、就職戦線にやや雪解けの様子が見られ、男子、女子ともに内定者が出ており、ほぼ全員が九月までに就職活動を終えていたようです。マスコミ方面では、出版社に一名が内定している状況で、さらに秋採用を目指して一、二名が活動を続けるとのことでした。

報告会の後は四年生を囲んで懇親会となり、面接のエピソードなどに話が盛り上がりました。

(OB会担当 横林良純)

## 【白門祭名物サテスタに煮込みうどん】

例年より暖かい陽差しの中、十月三十一日から十一月三日にかけて白門祭が催され、多くの学内外の参加者で賑わいました。

今年も放研は、8号館前に特設サテライトスタジオを設けて様々な番組やイベントを実施し、また昨年が続いて味噌煮込みうどんの店を出しました。さらにミニFM局を開設し、88・3メガヘルツでサテスタの生のDJやスポーツ中継を電波に乗せ周辺の人に聴いてもらうことも試みました。

今年のサテスタ番組は、一日中生で放送すること意識し、一年生から四年生までの個性溢れるDJを中心に、番組と番組の間で出店状況や天気予報を音楽に乗せてアナウンスし、一日のステージを一つのプログラムにする新しい形式をとったのが好評でした。それに加えて、

毎年恒例の一年生によるイベントを実施し、今年も映像や音響の機材を駆使した視覚やイントロのクイズが人を集めました。

いっぽう出店の方では、昨年同様に白門祭で唯一の味噌煮込みうどん店でもあり、毎日多くのお客さんが足を



◀放研名物味噌煮込みうどん



▼盛況なサテライトスタジオ

運んでくれました。特に中大生の評判が良かったようで、他のサークルからの固定客も多く、暖かい天候と良いとは言えない立地条件にもかかわらず、中大放研味噌煮込みうどんのブランドの強さを発揮しました。

今回の白門祭は、初めて一、二年生が中心になり、サテスタ、出店、機材、広報の班に分かれて成し遂げました。この経験は、確実に今後の力に変換され、まだまだ頼りなかった一、二年生にも、自信を与えた良い機会になったと思います。

(OB会担当 太田きよみ)



# 長信・短信+

風のうわさ

**11期 河合昭次郎さん** ◆昼間はそば屋さん店舗

専用”の不動産業として、夜は新宿でカラオケスナックのマスターとして、昼夜兼用で忙しい毎日を送っています。私が言うのもなんですが、飲み過ぎ歌い過ぎにご注意のうえ、良いお年をお迎え下さい。

**11期 田村芳和さん** ◆NHK奈良放送局から、

大阪放送局へ転勤しました。難波の年の瀬は、東京とは違った風物があり、慌ただしい中にも人情と根性を感じられます。

**13期 柳田美根子さん** ◆この五月に同期で長良川

の鵜飼を楽しんで以来、男性陣は仕事、仕事の毎日、女性陣もそこそこ忙しく、来年夏に因田幹事の仕切りで大阪に集合するまで、同期会はお休み状態です。私は、九月からパソコンを習い始めましたが、おもしろくて、おもしろくて、本業に差し支えそうなのこの頃です。

**15期 福田哲司さん**

北海道は厳しい冬が訪れ、ここ美幌町もモノトーンの季節を迎えています。

この夏、北見市で中大音研吹奏楽部のコンサートがあり、演奏は真面目で素晴しかったのですが、どうしたことが観客は八十人程度で残念でした。

やはり夏、深夜二時頃に飲んで帰ってなにげなくテレビをつけ、大自然の中での大鷲の生態を追いかけた素晴らしい番組を見ました。昨年度の優秀賞受賞作品とのことで制作が山内亨とあり、仙台放送の十

七期山内くんのことだと気づき感激しました。

北の果てに住んではいても、ひよんなどころで大学や放研とつながっています。近くにおいでの際は、ぜひ声をかけて下さい。

**16期 下條勝也さん**

夕刊フジの記者から、サンケイリビングに出向していました。今年七月から、こんどはサンケイスポーツに移って編集デスクをやっています。

朝刊ですから、仕事は深夜から明け方になるのが普通で、スポーツ紙の駅売りに休刊日もないため、毎日、午後出勤の明け方帰宅が続いています。

二月には長野オリンピックが控えており、これからも、自分の作った新聞とどちらが先に家に到着するか競争のような生活が続くそうです。

**17期 川崎博さん**

◆昨々までの企画制作の仕事が変更になり、再び以前の現場アナウンサーに復帰しました。山梨放送で、水を得た魚のごとく、毎日張り切っています。

**17期 田中明子さん**

◆横浜私立中学校の副校長として、現在難しい教育の現場で指揮をとっています。

**19期 高橋しづのさん**

◆家での主婦業は、息子が大学院生、娘が社会人となり一段落しました。これでやっと本業のコンピュータソフト学校の教師に専念でき、多忙を極めていきます。おまけに、気分転換に始めた社交ダンスが、社会人競技会に出場するほどの凝りようで、慌ただしくも楽しい日々を過ごしています。

**19期 大森真理さん**

◆毎日先輩たちから「例え、お天気ニュースでも自分の言葉で語るのが大切だ」と聞かされていた学生時代。なぜか今でも、たった

## がんばって ま〜す。

広島県 14期 伊藤輝久

広島県警に奉職して目まぐるしく日々を送るうちに、早くも三十年以上を経過してしまいました。現在は広島鉄道警察隊のデスクとして広島駅に常駐し、四十名の隊の運営、管理にあたっています。鉄道警察隊というのは、テレビ番組でお馴染みだった鉄道公安官の制度が国鉄の民営化に伴ない廃止され、それに替わって設置されたもので、当隊は広島県警の直轄部隊として、京都駅から福岡駅までの車内治安維持が任務になっています。

家庭では、娘は社会人として一人暮らし、息子は九州の大学に入りましたので、今は妻と二人でなんとなく新婚気分です。

皆さんにはご無沙汰しておりますがOB会の催しなどで再会できることを楽しみにしています。



新型新幹線試乗中の伊藤さん

一行のネームを書くときにも、この言葉を思い出します。借りてきた言葉ではなく、自分の言葉で書くことこそ読者に接近できるのではないかと、未だ青くさい気持ちで机に向かっていきます。現在フリーの料理編集者として、自分で企画し出版社に売り込んでいます。最新刊は「美味しい方程式」野崎洋光著（文化出版局）。ヒットしています。

**32期 山田康平さん** ◆幹事会の三十二期担当としてお手伝いしておりましたが、神戸に転勤することになり、後任に小林茂樹くんが決まりました。今後とも、よろしく願います。

**42期 小畑憲嗣さん** ◆FM群馬でアナウンサーとして励んでいます。十一月二十二日に新宿の居酒屋で同期会を行い、地方からの参加を含め十五人とよく集まりました。卒業から三年たちましたが、毎春秋に同期会を開いています。

## 現役就職状況



常時放研活動していた四年生十四名のうち、六月から七月の間にほとんどが内定を受け、十月末までには全員の進路が決定しました。

マスコミ関連は、RFラジオ日本のアナウンサーに一名、日経ホーム出版に一名が決まりましたが、後は一般の企業です。

また、一名は教育専門の大学院へ進み、一名は国会議員の秘書になるつもりで勉強しています。今年、例年に比べて大変早い時期に就職が決定しています。

## ホワイトボード

### 【創立四十五周年行事検討途中経過】

平成十年七月下旬に予定している創立四十五周年行事について、OB会幹事会から委嘱された実行委員会（金野実行委員長）で検討を重ねておりますが、現時点で次の方向が出されています。

- ①記念式典の開催は、平成十年七月十八日か二十五日の土曜日午後を予定。
- ②記念式典の会場は、東京新宿の「京王プラザホテル」宴会ホール。
- ③記念事業は、インターネットOB会ホームページ開設、マイトーク記念号発行などを提案。

諸般の事情により開催日が確定しておりませんが、既に会場は両日とも仮予約しております。一月下旬までに開催日、記念事業などを実行委員会案としてOB会幹事会に諮り、決定次第、遅くとも二月中旬には皆さんにご連絡する予定です。

### 【OB会名簿作成についてのごお願い】

平成十年二月二日より七桁の新郵便番号が導入されるのに伴ない、事務局ではOB会名簿の新版を作成し、二月中旬に配布すべく作業を進めています。これは、マイトークが宛先不明で返送されてくる数が八十件以上に達し、早急に洗い直しをする必要に迫られているからです。

のはパソコンで自動的にできますが、それには皆さんの正確な住所が必要で。

そこでお願

いですが、新名簿をより完全なものにするため、現在マイトークが届いている方でも、宛先に新郵便番号以外の変更や訂正があれば葉書で次の所までお知らせ下さい。

〒一六 東京都荒川区荒川二一八—一一 田中克巳



## 編集後記

「マイトーク」もお蔭様で創刊一周年を迎え、つがなく第三号をお届けすることができました。毎号締めぎりに追われ、事務局の無理な原稿依頼にも快くご協力を戴いた各位に、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

早いもので、OB会も発足して六年目となり、少しずつ形がつくられてきています。来年七月には、第二回定例総会に併せて創立四十五周年記念行事が催されますが、今世紀最後の集会でもあり、二十一世紀へ向けたOB会の発展に大いなる期待を膨らませるパーティーにしたいと考えています。

年の瀬、年頭と、過ぎた日々を振り返り、来るべき日々に思いを馳せる時節です。

手のつかぬ、月日あたらし 初ごよみ

寒さに向い、健康に十分ご留意のうえ、よいお年